

過程	学習内容と育てたい子どもの姿（心情・意識）
ふるさと学習	知る 【酒々井町のよさ】「ふーんそうなんだ!」・「そうだったのか!」 町の歴史・文化・自然等に関する新たな知識（国指定史跡「墨古沢遺跡・本佐倉城跡等」）
	持つ 【愛着・誇り】「酒々井っていいな!」・「すごいんだ! 他のまちの人にも伝えたいな」 【所有格意識（My まち・Our まち）】「自分の町を大切に、もっといい町にしたいな」
問題解決的な学習（政治学習）	育む 【ふるさと意識（参画・定住）】「町のために何かできることをしたいな」 「この町に住み続けたいな」・「町に戻ってきて住みたい」
	つかむ 【現状認識】「今のわたしのくらす町の環境は・・・だ」 【当事者意識】「わたしにとって、この町の環境は・・・だ」 【切実感】「このままではよくない」・「なんとかしたいな」・「もっとよくしたい」 【問題意識】「町のくらしを、よりよくするにはどうすればいいのかな?」 【主体的な意識】「わたしの町だから、町の未来をすすんで考えよう!」
	調べ 【町の環境調査】 「町をよりよくするために、今の町の環境の様子を調べよう!」 →自分たちの暮らすまちをくらしの視点で見直して、まちのよさや改善点に気づく。 【NIE活用（教育に新聞を）】→他市町村の情報を入手し、多面的多角的な視点で調べる。 「他のまちではこんな様子なんだ! 自分の町ではどうかな?」 「他のまちではくらしをよくするために・・・をしているのか! 町でもできるかな?」 【SDGs（持続可能な開発目標）の視点】→地球市民的な視点で町の環境を調べる。 「SDGsの視点で町の環境を見直してみよう!」
	まとめる 【まちづくりプラン（酒々井町への願いシート）の作成】 「他のまちの取組を参考に、酒々井町をよりよくするためのプランを考えよう!」 「SDGsの視点から、酒々井町でもできるプランを考えよう!」
主権者教育	発表 【学級内での発表】 「酒々井町の現状は・・・です。町をよりよくするために・・・を提案します。」 →作成した「酒々井町への願い」シートを提示しながら、プランを発表する。 【選挙の仕組み】 →選挙管理委員会の職員の説明から、選挙と投票の仕方について知る。 【こども模擬選挙】 →町民の願いの実現を考えて、公共性のあるプランを選び、公正に投票する。 【こども模擬議会】 →こども模擬議会の代表者として選ばれたことを自覚し、終了後に学級内で報告する。 【参画意識の啓発】→【情報発信】 →町ふるさとまつりで「酒々井町への願い」シートを展示し、町民に情報発信する。 【主権者意識の涵養】 →町の問題を自分の問題として捉え、自ら考え、自ら判断し、行動できるようにする。

学校⇄教育委員会（学校教育課）⇄町行政機関		
機関	連携	内容
企画財政課	1	公共施設の建設過程・町総合計画の説明 【場所】各小学校体育館・特別教室
	企画財政課	【7月上旬】 ①担当職員に酒々井学プログラム「酒々井のまちづくり」を提示して、学習のねらいと授業の進め方について説明する。 ②学校に授業の進め方と場の設定について説明し、実施日の日程調整を行う。
役場関係課	2	児童からの町行政に関する質問対応 【場所】酒々井町役場
	役場関係課	【8月中】 ①学校から提出された「町役場への質問」シートの内容を基に担当課を選定して、担当者に質問内容を説明する。 ②児童の家庭に連絡して、実施日の日程調整を行う。
選挙管理委員会	3	選挙の仕組みの説明 【場所】各小学校体育館
	選挙管理委員会	こども模擬選挙 【9月上旬】 ①選挙管理委員会に、投票箱・記載台の借用と講師依頼をする。 ②担当職員に酒々井学プログラム「酒々井のまちづくり」を提示して、学習のねらいと授業の進め方について説明する。 ③学校に授業の進め方と場の設定について説明し、実施日の日程調整を行う。
総務課	4	こども模擬議会 【場所】町役場議場
	総務課	【10月中旬】 ①総務課が学校に、こども模擬議会開催の協力依頼を行い、学校に事業内容の説明をする。 ②代表者の質問書を集約し、答弁書を作成する。 ③1週間前のリハーサルを行った後に、こども模擬議会を開催する。（議会事務局）
経済環境課	5	町ふるさとまつり・情報発信館での展示 【場所】中央公民館・まるごとすい
	経済環境課	【11月下旬】 ①施設利用の依頼を行い、展示作業を行う。 ・ふるさとまつり（11月下旬） ・情報発信館「まるごとすい」（12月上旬～） ②学校便り（学校）や町広報紙（企画財政課）を通して、保護者や町民に案内する。

## ふるさと学習を通じた

# 主権者教育指導ガイド



酒々井町では、酒々井学（ふるさと学習）を通じた主権者教育を推進しています。酒々井学のねらいは、児童生徒が、自分たちの暮らす町について知り、愛着と誇りを持ち、ふるさと意識を育むことにあります。

自分の持ち物を大切にするように、ふるさと学習を通して、この所有格意識（My まち・Our まち）を持つことで、わたしの町として、「大切にしたい」・「よりよくしたい」という主権者意識を育むことにもつながります。つまり、ふるさと意識と主権者意識は相関関係にあり、相乗効果をもたらすものと考えます。

この酒々井学を通して、「しすいっ子」が、主体的にまちづくりに参画する町民として育てられることを願っています。

酒々井町教育委員会

## 酒々井学（ふるさと学習）

### 1. 酒々井学とは

酒々井町の地域素材を使って教科等の学習内容と関連づけて作成した学習プログラムを通して実践する地域学習・地域活動

### 2. ねらい

酒々井町の歴史・文化・自然等について知ることで、郷土に対して愛着と誇りを持ち、町民としてのふるさと意識（参画・定住）を育む。

### 3. 育てたい子どもの姿

過程	内容	子どもの反応例
知る	酒々井町のよさ 町の歴史・文化・自然等に関する新たな知識（無知の知）	「ふーんそうなんだ」 「そうだったのか!」
持つ	愛着 誇り 心の風景として定着する学習 特色ある地域素材による学習	「酒々井っていいな!」 「すごいんだ! 他の町の人に伝えたい」
育む	参画意識 定住意識 地域活動等への参画 ふるさと意識の芽生え	「町のために何かできることをしたい」 「ずっとこの町に住みたい」

## 主権者教育

### 1. 国民主権とは

主権とは、国の政治の在り方を最終的に決定する権利のことで、国民がその役割を担うことを国民主権といいます。（日本国憲法の三原則の1つ）

### 2. 主権者とは

自分たちは社会に生かされているという受動的な意識から、自分たちが社会をつくっているという主体的な意識をもって社会に参画する者です。

### 3. 主権者教育とは

国や社会の問題を自分の問題として捉え、自ら考え、自ら判断し、行動していく主権者を育成していくことです。

酒々井学プログラム 小学校6学年「酒々井のまちづくり」

(4時間扱い)

酒々井学プログラム

【6学年】

社会科・総合	テーマ	酒々井のまちづくり	
ねらい	社会科「わたしたちの生活と政治」(町民の願いを実現する政治)で町の政治の働きに関心を持ち、生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していることを理解する。町のくらしの現状に対して関心を持ち、町民としての参画意識に基づく活動を行う。(主権者教育) 【資料】町総合計画・広報ニューしすい・議会だより・町WEB・副読本「いいね!酒々井」		
過程	学習活動と内容	「発問」と指導	資料
つかむ	1. 酒々井町に対する願いを発表し合う。 ・くらし・福祉・教育・観光・産業・環境・防災・安全等 2. 公共施設を建設するまでの流れを考える。 ・各自の考えを黒板で説明し合う。 【AL】	「みなさんは酒々井町に対してどのような願いを持っていますか?」 ・アンケートを基に発表させる。  「町民の願いはどのように実現されると思いますか?」 ・公共施設を建設するという想定でシートに記入させる。	・「酒々井のまちづくり」シート
調べる	3. 教科書の事例を基にワークシートに記入する。 ・町民の願い ・町役場の働き ・町議会の働き ・税金の働き	「教科書の事例を基に公共施設が建設されるまでの流れをまとめてみましょう」 ・各自、町公共施設「プリミエール酒々井」の建設の流れをシートに予想させる。	・プリミエール酒々井シート
1	4. 「プリミエール酒々井」を事例に建設までの経緯を聞く。 ・ワークシートに記入する。 5. 町民の願いが実現されるまでをフローチャートにする。 6. 酒々井町のまちづくり計画について説明を聞く。	「役場の方からプリミエール酒々井が建設されるまでの流れを説明してもらいます」 ・他市の事例と比較して確認させる。 ・プリミエール酒々井の事例を基に作成させる。  「酒々井町のまちづくりの計画について、説明してもらいます」	・企画財政課の職員 ・ワークシート
まちをみる	7. 各自の考えとその理由をワークシートに記入する。 ・くらしやすい(町のよさ) ・くらしにくい(町の改善点) 8. 他市町(自治体)の行政等の取組を調べる。(NIE活用) 9. 各自、町内を観察して改善点をワークシートに記入する。	「酒々井町のくらしやすさについてシートに書きましょう」 ・改善点を整理して、町をよりよくしたいという視点で調査計画を立てさせる。  「他のまちではどのようなことをしているのか新聞記事を見て調べてみましょう」 「夏休みに町民のくらしの目線で町を観察して改善したいことをまとめましょう」	・第5次町総合計画「しすいのまちづくり」
発展		「酒々井町は町民にとってくらしやすい町だろうか?」	・副読本「いいね!酒々井」
夏季休業		「酒々井町のくらしをよくするための方法について考えよう!」	・新聞記事
模擬選挙	10. 各自の考えを発表し合う。 ・選挙の仕組み・投票の仕方 ・模擬選挙での代表者の選出 11. こども模擬議会で自分のまちづくりプランを発表する。	「選挙管理委員会の方の説明を聞く。 ・こども模擬議会の発表者を選挙で選ぶ。  「学級の代表者として、自分のまちづくりプランをこども模擬議会で発表しましょう」 ・フリップを提示し分かりやすく説明する。	・「酒々井町への願い」シート
模擬議会			・選挙管理委員会の職員 ・記載台 ・投票箱 ・質問書 ・フリップ

「酒々井のまちづくり」(酒々井町への願い) シート例

The image shows two examples of student worksheets. Each worksheet has a header with the title '酒々井町への願い' and a sub-header '酒々井町は町民にとってくらしやすい町だろうか?'. The main body contains handwritten text and drawings. The first example includes a map of the town with a red circle around a specific area and a drawing of a building. The second example includes a drawing of a person and a drawing of a building. The worksheets are filled with student thoughts and ideas for improving the town.

「酒々井のまちづくり」実践事例1

1	「酒々井のまちづくり」出前授業	7月上旬	・社会科「わたしたちの生活と政治」(町民の願いを実現する政治)の学習で、企画財政課の職員が公共施設「プリミエール酒々井」の建設の経緯について説明し、町民の願いを実現するための行政の仕組みについて解説します。  ・冊子『しすいのまちづくり』酒々井町総合計画<子ども版>を使って、酒々井町の行政の計画について説明します。
2	NIE活用(教育に新聞を)調査活動	7月中旬	・県内の他市町村のまちづくりに関する新聞記事を「行政、環境、教育、生活、観光、産業」の分野別に整理し掲示することで、児童のまちづくりプランの参考資料とします。  ・児童は様々な新聞記事を読み、関心を持った記事に付箋紙を貼り、その記事の内容をプランに生かすなど、新聞を通して多面的多角的な視点でまちづくりについて考えるようになります。
3	町の環境についての調査活動	8月中	・NIE活用(教育に新聞を)による県内の他市町村のまちづくりに関する新聞記事やSDGs(持続可能な開発目標)の視点で町の環境を見つめ直して、自分たちのまちづくりプランの参考資料とします。  ・SDGs3「すべての人に健康と福祉を」とSDGs10「人や国の不平等をなくそう」の視点で、役場内のバリアフリー環境について調査活動をしました。
4	社会福祉協議会への調査活動	8月中	・SDGs(持続可能な開発目標)の視点で町行政の取組内容について調査をして、自分たちのまちづくりプランの資料とします。  ・SDGs1「貧困をなくそう」の視点で、町のフードバンクやNPO法人による「子ども食堂」の取組について、社会福祉協議会の職員の説明を受けました。  ・調査終了後、調査内容を新聞記事や資料を参考にして自分のまちづくりプランを考えます。

「酒々井のまちづくり」実践事例2

5	「まちづくりプラン」の発表活動	9月上旬	・夏季休業中に各自で調べた町の生活環境の課題から考えたまちづくりプランについて、「酒々井町への願い」シートにまとめて、学級内でパソコンを使って発表し合います。 行政の仕組みについて学習した後なので、まちづくりの視点で自分たちの生活に関わる公園の整備や通学路の安全等についての各自のプランを主体的に発表することができました。
6	選挙の説明→こども模擬選挙	9月上旬	・選挙管理委員会の職員から選挙の仕組みや投票の仕方について説明を受けた後に、学級毎に「酒々井町への願い」シートの内容をもとに、実際の記載台と投票箱と実物を模して作成した投票用紙「こども模擬議会代表者選挙投票」を使用して、こども模擬議会の代表者1名を選出します。  ・本格的な選挙を模擬的に体験することで、政治に主体的に関わる町民としての資質の育成につながる主権者意識を育むことができました。
7	こども模擬議会	10月中旬 (コロナ禍前)	・総務課と連携して、各小中学校の代表児童・生徒の15名が一般質問を行います。小学校は選挙で選ばれた5名が、「①体育館を健康でより安全な避難所にする。②公民館を子ども達が自由に利用できる施設にする。③公園に発電プランを設置し災害時の電源を確保する。④駅の空きスペースに床発電を使った施設をつくる。⑤公園にリサイクルボックスを設置する。」のプランについて町当局に質問をしました。 ・選出されなかった内容的に似ている児童のプランも取り入れて、参加意識を持たせました。
8	町ふるさとまつりでの情報発信	11月下旬 (コロナ禍前)	・児童作成の「酒々井町への願い」シートは、経済環境課と連携して、多くの町民が集まる「ふるさとまつり」の会場となる中央公民館に展示しました。児童のまちづくりプランに対して、参観した町民の意見や感想を付箋紙に記入し、模造紙に貼っていただくことで、双方向性を図りました。このことは、まちづくりに対する町民に向けたメッセージともなりました。 ・酒々井町にあるアウトレット隣の情報発信館「まるごとしすい」にも展示して、町外の買い物客に対しても情報発信をしました。